

事業の概況

■国内経済は緩やかな景気回復

当連結会計年度(2017年1月1日~2017年12月31日)におけるわが国経済は、欧米を中心とした世界景気の緩やかな回復に伴い、設備投資や輸出が持ち直し緩やかな景気回復が続きました。

このような経済状況にあって、堅調な業績を背景に企業の業況判断も改善しました。また、政府による働き方改革の推進等によりIT投資への関心も高まり、企業のIT投資は底堅く推移しました。

■地域主体の運営体制を継続

以上のような環境において当社グループは、「オールフロントでお客様の困ったを解決し、信頼に応える」を2017年度のスローガンに掲げ、地域主体の運営体制を継続し、道半ばではありますがそれぞれの地域の特性に応じてお客様との関係強化を図ってきました。また働き方改革については、過去に当社が生産性向上やコスト削減を目的としてお客様に提案してきたことの多くが解決策であり、豊富なソリューションを武器に当社自身が実践してきた事例を通じて、より具体的な提案に努めました。

これらの活動に加え動きが出始めたITインフラの更新需要に対し、大企業や中堅企業のITニーズをつかむことができました。

政府による働き方改革の推進
IT投資は底堅く推移

地域主体でお客様との関係強化
当社事例を通じた具体的な提案

■8期連続の増収増益、売上高、営業利益、 経常利益、純利益、過去最高を更新

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、6,911億66百万円（前年同期比7.4%増）となりました。利益につきましては、営業利益443億86百万円（前年同期比11.9%増）、経常利益454億60百万円（前年同期比11.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益315億60百万円（前年同期比18.3%増）と、8期連続の増収増益となりました。

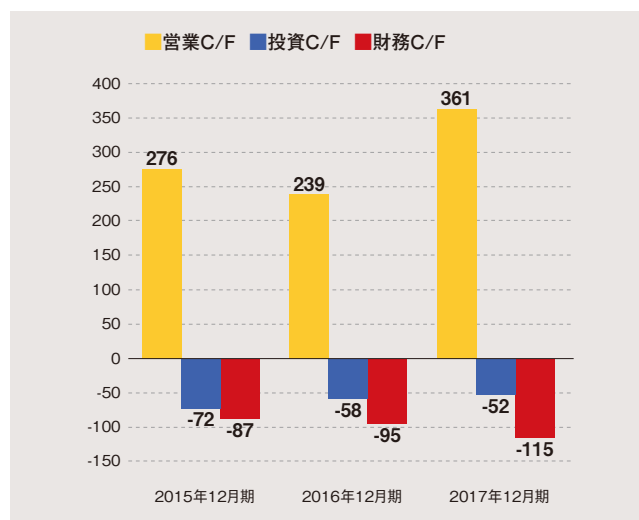
（単位：百万円）

| | 2016年12月期 | 2017年12月期 | |
|------|-----------|----------------|--------|
| | 金額 | 金額 | 増減率 |
| 売上高 | 643,417 | 691,166 | +7.4% |
| 営業利益 | 39,684 | 44,386 | +11.9% |
| 経常利益 | 40,780 | 45,460 | +11.5% |
| 純利益* | 26,675 | 31,560 | +18.3% |

*親会社株主に帰属する当期純利益

■キャッシュ・フローの状況

（単位：億円）



営業活動によるキャッシュ・フローは「たな卸資産の増減額」が増加に転じたことなどにより、前年同期に比べ122億21百万円増加し、361億53百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは当連結会計年度において「定期預金の払戻による収入」があったことなどにより、前年同期に比べ5億80百万円減少し、52億43百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ19億95百万円増加し、115億28百万円となりました。

四半期別の概況

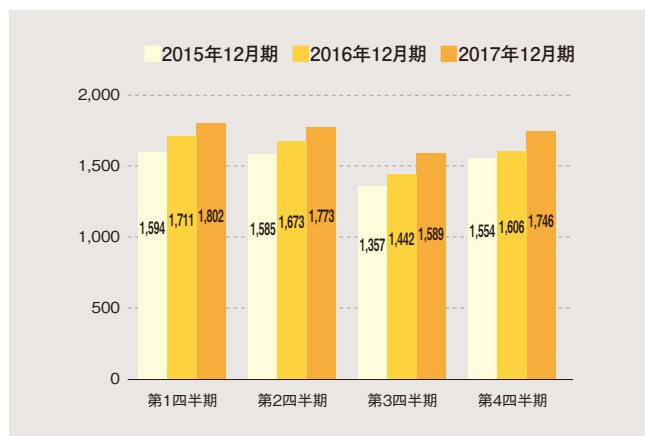
■売上高の推移

売上高は、全ての四半期で増収となり、増収トレンドを継続しました。

第1四半期(1～3月)売上高は、1,802億78百万円(前年同期比5.3%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、1,773億7百万円(前年同期比5.9%増)、第3四半期(7～9月)売上高は、1,589億43百万円(前年同期比10.2%増)、第4四半期(10～12月)売上高は、1,746億37百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

売上高の四半期推移

(単位：億円)



■経常利益の推移

経常利益は、全ての四半期で増益となり、利益成長を継続しました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、121億31百万円(前年同期比17.1%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、152億55百万円(前年同期比7.4%増)、第3四半期(7～9月)経常利益は、66億67百万円(前年同期比17.5%増)、第4四半期(10～12月)経常利益は、114億4百万円(前年同期比8.3%増)となりました。

経常利益の四半期推移

(単位：百万円)

